



## 特別任用講師 大藏教義氏と 本学卒業生 榎本元氏が 重要無形文化財の保持者に認定(総合認定)



撮影) 駒井壮介



重要無形文化財とは、芸術上または歴史上価値の高い伝統的な芸能や工芸技術に対し国が与える称号で、1957年に「能楽」も一般社団法人日本能楽会会員が総合認定され、現在523名の保持者がいる。

2023年7月、これらの保持者に加え新たに42名を文部科学大臣が認定し、大藏流吉次郎狂言会から大藏教義氏(本学特別任用講師)と榎本元氏(文学部国文学科1996年卒)の2名が重要無形文化財の保持者として追加認定された。

大藏特別任用講師は、2世 大藏吉次郎氏(文学部国文学科卒)の長男で、幼少期より狂言の世界で芸を磨く。また、2020年度より本学の文学部国文学科で古典芸能のゼミナールを担当。学生の指導と共に、日本の伝統芸能の継承と普及に貢献している。

榎本氏は本学在学中の1995年に大藏流吉次郎狂言会に入門。穏やかで温かみのある芸風を特徴とし、大藏特別任用講師と共に「狂言教室」を開講するなど、狂言の普及活動に精力的に取り組んでいる。

大藏特別任用講師は「芸道に向き合いつつ、学生にも興味を持ってもらえる授業と地域貢献を目指してまいります」と喜びを語った。



大藏教義特別任用講師



榎本元氏

## 附属高等学校 ダンス部 全国大会に出場

附属高等学校ダンス部は、9月17日、北九州メディアドーム(福岡県北九州市)で開催された第13回全日本高等学校チームダンス選手権大会の決勝大会に、小編成部門で「Butterfly effect」、大編成部門で「チーム二松」の2チームが出場した。

審査はダンス技術(テクニク)、音感技術(選曲・リズム感・音楽の解釈等)、構成技術(パッケージング・フォーメーション等)の3つの視点から行われ、小編成部門の「Butterfly effect」は全国7位と審査員特別賞、大編成部門の「チーム二松」も全国7位で大会の幕を閉じた。どちらのチームも表彰台に上げられる6位に一步およばず悔しい結果となったが、ダンス部顧問の松澤龍先生は「これまでの全国大会と比べ着実に前進していることが実感できた大会だった」と大会を振り返った。部長を務める入船葵衣さん(3年生)は「仲が良く団結力の強いチームで、楽しく踊ることができました。あともう少しのところで入賞を逃し悔しい気持ちもありますが、全国大会入賞の夢は後輩たちに託します」と感想を述べた。

この大会の他にもダンス部は、第16回日本高校ダンス部選手権(通称:ダンス甲子園)の東京大会Bブロックに出場し、スモールクラスで「Butterfly effect」が優勝、ビッグクラスでは「チーム二松」が3位に入賞し、全国大会への切符を手にした。今後もダンスで二松学舎を盛り上げられるよう、文“舞”両道で頑張っていく。



決勝大会直前の様子(北九州)

## ◆◆◆ 法人役員等改選 ◆◆◆

2023年9月1日、任期満了に伴い法人の理事、監事、評議員が改選され、水戸英則理事長が選任された。

改選後の役員および評議員の構成は2面に掲載する。

### お知らせ

#### 卒業研究制作発表会(狂言/能)

文学部国文学科古典芸能ゼミナール4年次生による公演です。学生たちの4年間の集大成をぜひご覧ください。

開催日: 2024年2月8日予定※  
場 所: 中洲記念講堂  
(九段1号館地下2階)

※開催日は変更になる場合があります。



## 学校法人二松学舎 役員等改選

### 役員

- ◆ **理事長** 水戸 英則
- ◆ **常任理事** 五十嵐 清  
(総務担当)  
西畑 一哉  
(企画・財務担当)  
佐藤 晋  
(学務担当)
- ◆ **理事 2号** 鵜飼 敦之  
(附属高等学校長)  
七五三和男  
(附属柏中学・高等学校長)
- 3号** 江藤 茂博 (新任)  
小町 邦明  
佐藤 晋  
高柳 幸雄 (新任)  
西畑 一哉
- 4号** 五十嵐 清  
武山 芳夫  
水戸 英則
- ◆ **監事** 根本 義尚  
橋本 泰久

### ＜評議員＞

- ◆ **1号** 鵜飼 敦之  
(附属高等学校長)  
七五三和男  
(附属柏中学・高等学校長)
- ◆ **2号** 秋葉 一之  
江藤 茂博 (新任)  
佐藤 晋  
島田 達彦  
志村 孝  
西園 隆士  
飛田正太郎  
山口 直孝
- ◆ **3号** 大林 一夫  
大山由美子 (新任)  
古賀三奈子 (新任)  
小町 邦明  
高柳 幸雄  
山田浩次郎 (新任)
- ◆ **4号** 五十嵐 清  
大槻 奈那  
篠辺 修  
武山 芳夫  
西畑 一哉  
野島 透  
水戸 英則

※任期2023年9月1日～2027年8月31日  
(但し、私立学校法の改正により任期は2025年5月の評議員会までとする)  
※1号理事については現在空席  
※敬称略・選任区分内50音順(一部除く)

## 理事長ご挨拶

学校法人二松学舎 理事長 水戸 英則

9月1日に評議員会、理事会の改選が行われました。引き続き二松学舎の発展に努力して参りますので、皆様方のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

本学は今年で創立146周年を迎えました。二松学舎大学、附属高等学校、附属柏中学・高等学校の共通目標である長期ビジョン「N'2030 Plan」も6年目に入りました。関係者の皆様方のご尽力、そして教職員の方々のご努力のおかげで、計画は順調に進み、多くの成果が上がると共に、二松学舎は着実にステップアップしてきました。

一方で、私学経営を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。18歳人口は予想と比べて10年以上前倒しで急減しており、さまざまな対応が必要となります。こうした状況を踏まえ、大学では、昨年度導入した新カリキュラムの実質化と教学マネジメント面のDX化の推進、この二つに重点をおいた取り組みを今後実施していきたいと思います。DX化に関する具体的な施策としては、教務基盤システムの更新、入試・教務・キャリアセンター等各種データベースの統合やLMS(※)の新規導入等です。これらを通じて、教育・研究の質を一層引き上げながら、学修者本位の学びの質の向上、出口の保証のさらなる充実を図り、学生募集力を維持及び向上させることが肝要です。また、大学における諸課題についても出来る限りの対応を行っていく所存です。

附属高等学校、附属柏中学・高等学校においては、難関大学への進学実績を挙げつつ、いつも選ばれる高等学校、中学校としての揺るぎない地位獲得を目指して、皆様と共に、確実に着実に歩んでいきたいと考えております。

ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。 ※Learning Management System(学習管理システム)

## 永年勤続表彰

10月10日付で以下の8名を永年勤続者として表彰した。(敬称略・50音順)

### 30年表彰

**大学職員** 大上 哲郎  
**附属柏高等学校教員** 青木 英明

### 15年表彰

**大学教員** 伊藤晋太郎、小山 聡子  
須藤 和敬、中川 桂  
**附属高等学校教員** 齋藤 真一、相良 恭子

## 「舎友」称号授与

舎友の称号は、法人役員として1期以上在職した者、法人評議員として2期以上在籍した者、教職員として20年以上勤務した者、大学・高等学校の役職者として通算5年以上在職したものなどに贈られる。9月1日付で以下2名に舎友の称号を授与した。(敬称略・50音順)

齊藤 定市 | 渋谷 健

## 「二松学舎賛助員」称号授与

学校法人二松学舎では、二松学舎教育研究振興資金(以下、振興資金)の高額寄付者を表彰している。本年は2名に「二松学舎賛助員」(振興資金への寄付金累計額が100万円以上500万円未満)の称号を授与した。

井上 興正 様  
※1名はご本人の希望により、匿名とさせていただきます。

## 二松学舎「創立145周年記念募金」のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っておりますが、昨年度に引き続き、「創立145周年記念募金」として募集しております。寄付金は使途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。(確定申告のお手続きが必要です。)

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。

または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送り致します。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### お知らせ

これまで「二松学舎新聞」で掲載しておりました寄付者のご芳名と口数を、ホームページ上でご芳名のみ掲載に変更いたしました。詳しくはホームページの「寄付者芳名録」でご確認ください。

企画・財務課

☎ 03-3261-1298 (月～金 9:00～16:30)  
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

### 附属高校 野球部

## 5季連続の甲子園出場かなわず

夏の甲子園出場への切符をかけた第105回全国高等学校野球選手権記念大会東東京大会(7月8日～30日)が行われた。二松学舎大学附属高等学校野球部の初戦は13日、成立学園高等学校と対戦し6対0で3回戦へと駒を進めるも、17日に行われたシード校堀越高等学校に敗れた。

堀越高等学校との対戦は、3回に2点を先制するも、5回に同点に追いつかれ、どちらも譲らず9回が終了。タイブレークに突入した延長10回ノーアウト満塁から3点をリードするも、直後、

4点を奪われ5対6で堀越高等学校に惜敗。5季連続の甲子園出場の夢はかなわなかった。

3年生が引退し、翌日から新チームがスタートした野球部。今後のさらなる活躍を期待したい。

3年生が引退し、翌日から新チームがスタートした野球部。今後のさらなる活躍を期待したい。



悔しさをにじませるメンバーたち



炎天下でも全力で仲間を応援



## 高大連携講座 「二松 学舎学びのコース」を実施



大学の授業や雰囲気を感じ

2020年度からスタートした「二松学舎学びのコース」が今年度も開講され、4月～2月までの期間に計8回の授業が実施される。この取り組みは、附属高等学校2年生の希望者を対象に、大学での学びを実際に体験してもらうことを目的としたもので、二松学舎大学で実際に教鞭をとる教員が講義を担当する。附属校ならではの取り組みといえる。

2学期第1回目は9月20日、文学部都市文化デザイン学科の松本健

太郎教授による「ゲーミフィケーションから考える観光とコンテンツ」が開講され、26名の生徒が受講し、アニメやゲームなどのコンテンツを利用した観光研究について学んだ。

参加した生徒からは「ゲームやアニメなどの身近なテーマが学問とつながっていてイメージがしやすかった」「大学の先生に授業をしてもらう機会はなかなかないので貴重な体験だった」「二松学舎大学について興味が持った」といった声が聞かれた。

10月以降も、両学部による「二松学舎学びのコース」が予定されている。引き続き、生徒の学習へのモチベーションアップやキャリア形成につなげられるよう高大連携の取り組みを推進していく。

## 千代田区キャンパスコンソ 共同 公開リレー講座を開講

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（通称：千代田区キャンパスコンソ）による共同公開リレー講座が「ちよだて学ぶ2023ー知ると未来が楽しくなるー」を統一テーマとして開講され、本学では8月25日に次の2講座を開講した。

文学部都市文化デザイン学科の谷島貴太准教授が「ウィキペディアを通して地域と関わるー百科事典の一つの未来」と題して、ウィキペディアの記事作成を通して、いかに地域と関わるかができるかという講義をオンラインで、また、国際政治経済学部国際政治経済学科の西川雅子特別任用教授が「大



谷島貴太准教授



西川雅子特別任用教授



西川特別任用教授の講義

使館に見る千代田区の今昔（いま・むかし）～ベルギー大使館の変遷とともに」と題して対面で講義し、本学周辺に集まる大使館の中でも今回は特にベルギー大使館と日本（そして千代田区）の歴史のかかわりについて考察した。

今後も地域発展の推進のため、大学間連携活動を実施していく予定だ。

### ■ 千代田区キャンパスコンソとは

千代田区内の徒歩圏内に位置する5大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学）は、千代田区や地域産業界等と連携・協力し、近隣5大学の立地を生かした大学間連携と地域発展の推進を図ることを目的として、学生の単位互換をはじめさまざまな連携事業を展開している。

## 九段 1号館 地下2階に 個別ブースを設置



集中して課題に取り組みたいときに最適

2023年6月、地下2階に個別ブースが設置された。各席パソコン用のコンセントが設置され、課題やレポート作成などのパソコン作業や、人目を気にせず集中して勉強に取り組みたいときに最適なスペースとなっている。

また、本学卒業生やゆかりのある著名人、関係者のパネルが展示されている同階の「学生ホール」も、2023年1月に机や椅子が一新され、モダンテイストのおしゃれなスペースとして生まれ変わり、多くの学生の交流スペースとして活用されている。



交流スペースとして人気の「学生ホール」

## 柏 キャンパス改修工事で 教育環境を整備

柏キャンパスでは、教育環境整備のため定期的に施設設備の改修工事を行っている。柏1号館外壁耐震化工事、大学グラウンドの整備（2021年度）、柏1号館講堂天井の耐震補強、同講堂・大学体育館の照明をLEDに変更、2号館の空調工事（2022年度）に続き、2023年5月には大学、附属柏中学・高等学校の正門等の改修が行われた。今後は3カ年計画により、柏1号館の大幅な改修



柏1号館5階

し、廊下壁や床の改修、天井の塗装、耐震性強化のため窓枠を取り換えた。また、省エネ効果を見込み照明器具をLEDに交換するなど、施設的美観・補強とあわせて教育環境を整備した。2025年度の柏1号館完全改修に向け、引き続き計画的に改修工事が行われる予定だ。



柏キャンパス正門

## 附属 柏中・高吹奏楽部、 夏まつりで演奏を披露

8月26日、風早北部地域にあるひまわりプラザ（沼南近隣センター）



「落ち葉の舞う季節」を披露

で納涼夏まつりが行われ、附属柏中学・高等学校吹奏楽部の生徒たちが、地域の方々に演奏を披露した。

当日は、アンサンブル曲の「落ち葉の舞う季節（木管三重奏）」と「舞姫（打楽器三重奏）」の2曲を披露。部長の大内慧莉さん（高2）は、「自分たちの演奏を喜んでもらえる場は、コンクールとは違う励みや新しい学びがありました。温かい雰囲気ですいつも以上にのびのびと演奏ができました」と感想を語った。

この会場で演奏を披露するのは2019年3月以来ということもあり、今回のイベントへの参加は、地域の方々との貴重な交流の場となった。



フライパンも演奏に使用

## 大学資料展示室 企画展のお知らせ

企画展：三島中洲と近代 其九  
二松学舎に学び中国大陸で活動した人々  
一新収の清宮宗親資料から

会 期：10月16日(月)  
～11月25日(土)

休館日：附属図書館(九段)に  
準じる

会 場：大学資料展示室  
(九段1号館地下3階)

創作者・三島中洲と漢学の発展を中心に近代日本を考える企画展の第9弾。

今回は1890年代に漢学塾二松学舎で学んだのち30年以上にわたり中国各地で日本語教師や通訳として活動した清宮宗親(1876～1936)のご子孫から本学に寄贈された資料をもとに、二松学舎で漢学を学び中国大陸で活動した中国通たちの生き方をたどる。

※新型コロナウイルス感染症「5類感染症」の移行に伴い、一般公開を再開しました。

お問い合わせ(附属図書館)  
☎ 03-3263-6364(月～土 9:00～16:30)

謹んでお悔やみ申し上げます。

訃報

雨海博洋氏(名誉教授)

2023年6月10日逝去。満99歳。

(1969年～1997年在職) 助教授、教授を経て、附属図書館長、

文学部長、学長を歴任した。20

01年勲三等旭日中綬章受章。

青山忠一氏(名誉教授)

2023年7月30日逝去。満94歳。

(1968年～1999年在職) 助教授、教授を経て、文学部長、文学研

究科国文学専攻主任を務めた。20

09年瑞宝中綬章受章。



## 設置校NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

7月23日、8月6日、20日

## 夏のオープンキャンパスを開催



▲学部・入試説明

資料配布コーナー▶



「入試対策講座」、「模擬授業」、「キャリアサポート説明」といった恒例のプログラムに加え、「教員による個別相談」、「学生と話そう！コーナー」、「クラブ・サークル活動紹介」などは教員・学生と直接触れ合える機会ということもあり人気で、真剣に質問

する参加者の姿が見られた。

また、教職（7/23）や海外留学（8/6）のサポート制度説明や国際政治経済学部国際経営学科の産学連携プロジェクトについて（8/20）など、各回「特別企画」も実施され、二松学舎大学について、より理解を深めてもらえる機会となった。

7月23日（日）、8月6日（日）、20日（日）の3日間、九段キャンパスで夏のオープンキャンパスが開催され、盛況のうちに終了した。

各日猛暑にもかかわらず、10時の受付開始と同時に多くの来場者が訪れ、学生スタッフが笑顔で出迎えた。

「学部・学科紹介／入試制度説明」、



人気の「学生と話そう！コーナー」



漱石アンドロイドとのクイズ大会も(8/20)

附属高校

夏休み期間中

## 語学研修で「世界が広がる」体験

附属高等学校ではこの夏、2つの語学研修が行われ、26名の生徒が参加した。

4年ぶりの台湾 中国語学研修は6名の生徒が参加し、附属柏高等学校の生徒と合同で実施した。生徒たちは中国文化大学で中国語の授業を受け、エネルギーギッシュな先生方にパワーをもらいながら楽しく学習することができた。

また現地での買い物や台北市内の班別研修を通じて中国語を実践するなど、充実した語学研修となった。

オーストラリア・スタディーツアーは20名が参加。クイーンズランド州



▲台湾観光



▲ブリスベンを一望(オーストラリア)



▲発表の様子(オーストラリア)



▲授業の様子(台湾)

## ①台湾 中国語学研修

期間 8月16日～22日  
参加人数 1～3年生6名  
研修先 中国文化大学

## ②オーストラリア・スタディーツアー

期間 8月9日～21日  
参加人数 1・2年生20名  
研修先 ケドロン高校

大学

7月4日

## 外国語課外講座「イングリッシュ・カフェ」

九段5号館5階国際交流スペースで、昼休みを利用した英会話の課外講座「イングリッシュ・カフェ」（国際交流センター主催）が開催され、両学部から10名の学生が参加した。

会話はすべて英語で行われ、ネイティブのスタッフが学生のレベルにあったスピード、表現方法で、学生たちの会話を引き出した。

春学期は2回開催し、今回参加した学生からは「英語を話す機会が少ないため勉強したことをアウトプットする



初級・中級以上の2班で実施

いい機会になった」といった声が聞かれた。

秋学期は12月15日まで週1回、いずれも昼休みに実施予定で、日時についてはLive Campusで告知する。

大学

6月19日・20日

## 両学部1年次生「お金」を学ぶ

1年次生必修科目「キャリアデザイン」（鈴木浩子講師）において、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社の社員を講師に招いた金融



SMBCコンシューマーファイナンス株式会社 主任・長江隆友氏

経済教育セミナーが開催された。

セミナー前半は同社の辻谷美由紀氏が担当し、学生は表を作成しながら今後のライフイベントにかかる収支について考えた。

セミナー後半は同社の長江隆友氏が担当し、受講生らは社会人1年目と仮定し、具体的な家計（収入、支出、貯蓄など）について学んだ。

長江氏は最後に、「本日の内容はあくまでお金の入門です。正しい金融リテラシーを身に付け、お金と上手に付き合ってください」と呼びかけた。

附属高校

夏休み期間中

## 中学生対象・部活動体験

夏休み期間を利用し、附属高等学校への受験を検討している中学3年生を対象とした部活動体験が実施された。運動部と文化部合わせて17のクラブで参加者を募り、計44回の体験会に多くの中学生が参加した。

美術部ではレジンを使った小物作り、ダンス部では「ダンスマン」という一曲を練習し、最後に保護者の前で披露するという体験をしてもらっ



小物作りを教える美術部

た。短い時間の中でも実際に体験してもらうことで、生徒たちが楽しくクラブ活動に取り組んでいることを伝えるよい機会となった。



かわいい小物が完成

附属高校

6月6日

## 調理実習で非常食作り

2年生は「家庭基礎」の授業で災害時の非常食作りに挑戦した。コロナ禍以降、4年ぶりの試食を含む調理実習となった。

作ったのは「ポリ袋でお湯ぼちやオムライス」。災害時に電気が使えなくなった場面を想定して、電気がなくても炊飯できることやエコ調理を学び、いざという時の対応力を身に付けることが目的だ。

中学時代には調理実習の経験がなかった生徒たちは、慣れない手つきながらも楽しんで調理に取り組んでいた。



▲お湯ぼちやオムライスが完成 ▲エコ調理に挑戦



附属柏中学校・高校

夏休み期間中

## 海外研修が4年ぶりに再開



ボードゲームを使った英会話の練習

4年ぶりに海外研修が再開され、中・高合わせて118名が参加し、カナダ、オーストラリア、イギリス、台湾の4カ国へ旅立った。

それぞれの研修には特徴があり、カナダでは自然や環境保護への取り組み、オーストラリアではホームステイを実施、イギリスではラグビー校との相互理解を深める交流、台湾では現地の大学で語学研修を行うなど、さまざまな取り組みが行われた。

参加した生徒からは、「初日は不安でしたが、2日目からは現地の生活が楽しくなり、最後は日本に帰りたくないと思えるほどでした。ネイティブのスピードに追いつけるよう、これからも英語をがんばりたいです（中3・カナダ）」、「今後の将来設計に



ビートルズの銅像前で(イギリス)



◀ランタン上げ体験(台湾)



▼聖火台にて(カナダ)

役立つ経験になりました。英語は、現地の人に積極的に話しかけることができたので大きな自信になりました(高2・オーストラリア)」といった感想が聞かれた。

それぞれの国で充実した経験をした生徒たち。この経験を語学だけでなく、国際的な視野を持ち、今後の学習や将来につなげていくことを期待したい。

## ①カナダ研修

期 間 7月9日～23日  
参加人数 中学3年生19名/高校1年生9名  
研修先 ブリティッシュコロンビア大学

## ②イギリス短期留学

期 間 7月27日～8月11日  
参加人数 高校1～3年生24名  
研修先 ラグビー校

## ③オーストラリア研修

期 間 8月13日～26日  
参加人数 中学2・3年生22名/高校2年生26名  
研修先 中学：クレーブランド州立高校  
高校：マレニー州立高校

## ④台湾 中国語学研修

期 間 8月16日～22日  
参加人数 高校1・2年生18名  
研修先 中国文化大学

附属柏中学校・高校

9月16日・17日

## 第54回松陵祭「翔けまわれ、青春。」

今年で54回を迎える松陵祭が9月16日・17日に開催された。今年のスローガンは「翔けまわれ、青春。」。昨年よりも飛躍した松陵祭を目指した。

実行委員長の岡田愛さん(高3)は「松陵祭は高校時代のたった2日間の一瞬の出来事ですが、その一瞬の思い出は今後の人生で私たちを支えてくれるものになるかもしれません」と松陵祭にかけた思いを語った。

今年是一般の方々も多く来場し、2日間で約3,500名が訪れた。メイド喫茶や論語カフェといったクラスごとの出し物のほか、中庭では軽音楽部や書道部などの発表が行われ活気に満ちた2日間となった。



書道パフォーマンス

また、松陵祭という大きな行事をやり遂げた生徒たちは、協力し合うこと、計画性、みんなでひとつのことを達成する喜びなど、大切なことを学ぶことができた。



▲思い出の1枚

◀クラスの出し物も充実



新聞展示(中2)



クラス対抗論語かるた選手権

附属柏高校

7月26日～7月29日

## 3泊4日の勉強合宿「サマーセミナー」



難関大合格への力を養う

長時間の勉強にもかかわらず、分からないところを生徒同士で考えたり、積極的に先生に質問するなど、生徒たちはとても熱心に集中して取り組んだ。

3日目の夜特訓では、1・2日目よりも多くの生徒が、最終日のテストに向けて勉強していたのが印象的だった。閉校式終了後は、苦勞を乗り越え一回り成長した生徒の姿が見られた。

スーパー特進コースと参加を希望した特進コースの2年生を対象としたサマーセミナーが千葉県内のホテルで行われ78名が参加した。

附属柏高校

6月6日

## 球技大会で団結力を

毎年、学年別に行われる球技大会。6月6日、高校1年生にとって初めての球技大会では、バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントンの4競技をクラス対抗で競った。

高校生活にも少しずつ慣れ、新しい友達と共に楽しみながら汗を流す生徒たち。この球技大会では、5月に行われた体育祭に続き、スポーツマンシップに則り公平に競い合う

ことの大切さを学び、クラス内の団結力はもちろん、他のクラスとの親睦も深めることができた。

▲表彰式の様子  
▲スポーツを通してクラス内が団結

附属柏中学校

7月7日・10日・11日

## 3日間の“オールイングリッシュ”授業



英語での発表を行う生徒

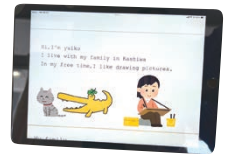
中学1年生のグローバル探究コースの生徒たちを対象に、英語力向上を目的としたSEP(Summer English Program)が実施された。

生徒たちは“オールイングリッシュ”での授業ということもあり、はじめの

うちは戸惑う姿もあったが、時間が経つにつれて笑顔が増え、学びを楽しんでいる様子が見受けられた。

初日は簡単な英語での自己紹介からはじめ、最終日にはスライドを用いた発表が行えるようになった生徒たち。この経験は生徒たちにとって、これから英語を学習する上で大きな自信になっただろう。

なお、この授業は中学2年生の同コースでも実施されている。タブレットも使いながら学習



附属柏中学校

6月6日

## キッズニア職業体験

中学3年生は、キャリア教育の一環として「働くことの意義」や「SDGsを中心に企業が社会に貢献していること」を考えることを目的とし、校外学習としてキッズニア東京に出かけた。

さまざまな仕事を体験する中で、生徒たちは、誠意を持ってお客様に接することの大切さや、普段何気なく利用している企業のサービスについて、多くの先端技術が私たちの世界を支えているということを実感したようだった。

さまざまな仕事やサービスを楽し



楽しみながら社会を学ぶ

みながら学んだ生徒たち。自身の将来を考えるよいきっかけとなったに違いない。



## 夏休み子ども研究会

2023年8月10日

## 小学5・6年生対象 さかなクンin二松学舎を開催

主催 二松学舎大学 後援 千葉県柏市・柏市教育委員会

二松学舎大学では例年、地域文化振興の一環として、千葉県柏市内の小学5・6年生を対象に「夏休み子ども研究会」を実施している。

昨年に引き続き、魚類学者のさかなクン（東京海洋大学名誉博士/客員教授）を講師に招き、8月10日に実施し、柏市内の小学5・6年生とその保護者計376名が参加した。

講演は、魚の生態や水の環境汚染問題の話が中心に進められ、さかなクンの豊富な知識と明るく元気な語りかけは、子どもだけでなく大人も興味をかきたてられるものとなった。



参加者の質問を聞くさかなクン

講演後は参加者を対象としたクイズと質問の時間が設けられ多くの質問が飛び出した。

イベント当日は、附属柏中学・



ユーモアあふれるさかなクンの講演

高等学校吹奏楽部によるウエルカム演奏をはじめ、中学2年生による体験学習「沼の教室」の発表なども行われ、附属柏中学・高等学校協力のもと参加者を楽しませた。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で急きょ、オンデマンド配信となってしまったが、今年は対面で開催されたこともあり、イラスト描写なども交えて行われたさなかクンの魅力あふれる講演は、子どもたちの探究心を刺激するよい機会となった。

## 参加者の声

さかなクンのさまざまな魚の情報や知識、また全員が今日からできる環境問題への対策など、とても興味深いお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

好きなものを好きでい続けること、知らなかったことも貪欲に追求していくことなど、多くのことを教えてもらいました。

楽しみながらも考えさせられる内容はまさに「研究会」という名がぴったりなイベントでした。今後もいろいろなテーマで、子どもたち・柏市の未来のために開催してください。

クローズアップ  
-大学-

## 心のモヤモヤ、一人で抱えていませんか？

皆さんが充実した学生生活が送れるよう、本学では学生相談室を設置しています。カウンセラーの奥野光さんにお話を聞きました。

## Q. 学生相談室とは？

A. メンタルなことを相談するところという印象を持たれがちですが、学業に関すること、自分自身のこと、対人関係、トラブル・被害の相談など、**学生生活を送る上で起きるすべてのことをカウンセラーに相談できる場所です。**大学・大学院の在学生のほか、保護者からの相談も受け付けており、来室・電話・オンラインで相談ができます。もちろん留学生も利用できます。

## Q. どんな人が相談に乗ってくれますか？

A. **公認心理師および臨床心理士という専門の資格を持ったカウンセラーが相談に応じます。**必要に応じて月1回来学する精神科医を紹介することも可能です。学業の相談については教員カウンセラーに相談もできます。

## Q. 相談していることを知られませんか？

A. 相談室を利用していることや話している内容を勝手に誰かに伝えることはありませんので**安心してください。**

## Q. 予約は必要ですか？

A. 皆さんのスケジュールに合わせて相談の時間

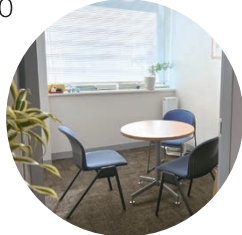
## 学生相談室



を十分に取るために、**できるだけ予約を取ることをお勧めします。**相談時間は一人約30～50分です。予約方法については、下記の申し込みフォームまたは大学ホームページをご確認ください。

## Q. 相談以外に施設を利用できますか？

A. フリースペースという多目的スペースがあります。名前の通り**自由に過ごせる場所**で、現在は毎週金曜日（9:00～16:30）に開放しています。本を読んだり、お弁当を食べたり、眠ったり…学生同士で譲り合いながら自由にご利用ください。



## 学生相談室（九段1号館11階）

受付時間：9:00～16:30  
（原則、授業期間中）  
右のQRコード（学生相談室申し込みフォーム）から予約可能です。



附属校については在学している中学校・高校にお問い合わせください。

## 私の一冊

#49



## 古代国語の音韻に就いて 他二篇

橋本進吉(著)  
岩波文庫、1980年

附属高等学校国語科教諭  
末木 孝之

高校生の時、古典の授業で、「君たちが知っている五十音はもっと古い時代には五十ではなく、六十を超えていたんだよ」という話をしてくれたのを今でも覚えている。当時二年生であった私はその時は漠然と五十音図を頭に浮かべ、現在、ヤ行は二音欠けているのでそういうこともあるかもしれないと思いながら聞いていた。その時、先生がこの『古代国語の音韻に就いて』という本を示し、「もし今の話が気になっている人がいたらぜひ見てごらん」と言われた。

高校生の私は、国語にそれほど興味がなかったわけではなかったが、その時に習っていた古典の文法や解釈とは何か一味違った音韻というものに惹かれこの本を手にとってみた。

奈良時代には現代より多くの音が発音され、聞き分けられており使い分けがされていたこと、それを万葉仮名と言うこと、ア行、ヤ行、ワ行の「い」「う」「え」について『仮名で書きわけられないが、五十音図では別々になっているということは、音として違ったものだということを示すものであります』という文が頭に残り、これがきっかけとなって大学では国語学を勉強してみようと思うようになっていった。

少し古い本ではあるが、音韻を見るのが初めての人でも気軽に手に取っていただける一冊だと思う。

私“就活”  
がんばっています！

にいざわ か な  
新澤 加奈さん  
文学部中国文学科3年次生

私は、気になる業界や業種を知り、イメージのわからなかった業界・業種を理解するためにインターンシップに参加しました。キャリアセンターの「インターンシップ・就業体験特別講座」を受講し、5～6月頃から二松ナビや就活サイトを利用して探し始めました。

探す際はまず、業界を重視して参加したい企業を選びました。また、会社の雰囲気を感ずるため、オンラインではなく対面開催のプログラムを選択し、2社の違った業界のインターンシップに5日間ずつ参加しました。

1社目はタクシー事業を手掛ける企業で、タクシー乗り場の視察、電話対応、営業課の同行などを体験させてもらいました。

2社目はスーパーマーケットを運営する企業です。自社・競合店の見学からはじめ、マーケティングに必要な3C分析を学んだり、海外とのミーティングにも参加したりしました。

今回のインターンシップを通じ、「10年後どうありたいか」を考えるようになりました。内定をゴールとせず、この先、自分が会社でどう働きたいのかを具体的に考えることが大切だと知りました。今回の経験を、今後の業界分析に生かし納得のいく就職活動をしたと思います。

新コーナー「キラリ☆人」では、各設置校でがんばる学生・生徒を紹介していきます。